

# 島根県における保育所保母のヘルス・ケアに 関する研究 (第2報)

— 保母にみられる頸肩腕障害と日常生活の不便・苦痛の実態 —

清 水 智 子  
(保健研究室)

## Studies on the Health Care of Nursery Governess in Shimane Prefecture. Part 2. Occupational Cervicobrachial Disorder and its Troublesome Effects on the Daily Life.

Tomoko SHIMIZU

### I はじめに

地域社会の変貌の中で、保母の労働領域も乳児および障害児保育へと拡大してきた。それに伴い、心身にいろいろな健康障害を訴える保母が増加し、今日の問題となっている。著者は、その防止対策とヘルス・ケアの確立を目的として島根県における保育所保母の疲労自覚症状について、吉竹による指標に基づき調査した結果、総体的には、一般的疲労症状を示したが、市部の私立無認可保育所、離島の私立保育所およびへき地の公立保育所、いずれも既婚保母に精神作業型、夜勤型の疲労症状が顕著であり、また疲労の内容としては、「全身がだるい」、「足がだるい」、「目が疲れる」、「横になりたい」、「肩がこる」、「腰がいたい」などの訴えが多いことを明らかにした<sup>4)</sup>。

今回は、疲労にくわえて現在、保母に多発している職業病として社会的問題となっている職業性頸肩腕障害の実態とその日常生活に与えている不便・苦痛の現状について調査、検討したので報告する。

### II 調査対象および方法

調査は、昭和57年8月から10月にかけて島根県下における保育所329カ所（認可297カ所、無認可32カ所）の保母1,690名に対し、郵送法により各施設毎にアンケート調査を行った。

地域別の内訳は、市部59.1%、農山村31.8%、離島8.2%、へき地0.9%であった。市部の71.8%が私立、逆に農山村は73.8%が公立、離島は57.1%が私立、へき地は公立のみであった。

調査の内容は、A. 保母の健康調査、B. 保育所のあり方と保育方針、C. 集団保育の実態の項目である。今回は、とくに職業性頸肩腕障害に関する調査<sup>5)</sup>（全身症状、身体部位別症状、日常生活の不便・苦痛について）とさらに業務実態調査<sup>6)</sup>（勤務が日常生活におよぼす影響について）を検討した。

調査にあたっては、日本産業衛生学会頸肩腕障害委員会<sup>7)</sup>ならびに交代勤務委員会<sup>8)</sup>の調査票を用いた。

### III 調査結果および考察

総回答者数は937名、回答率は55.4%であった。回答率を地域別、設置主体別にみると、市部62.1%

（公立53.8%，私立66.1%），農山村52.3%（公立51.0%，私立52.3%），離島68.8%（公立57.9%，私立88%），へき地40.0%（公立のみ）であった。

調査結果は地域特性別に市部，農山村，離島，へき地の四群に分類し考察した。

調査対象の概要は年代別では20代が53.4%と最も多く，私立が公立より若年化の傾向を示した。さらに，経験年数別では10年未満が62.1%，未・既婚別では既婚者が60.2%，勤務時間別では平均8～9時間労働が93.6%と最も多かった。

1. 職業性頸肩腕障害の全身症状

設置主体・年代・経験年数・未・既婚別ともに目の疲労，とりわけ「視力がおちた気がする」の訴えが，「目がかすむ」，「目がいたい」とくらべて圧倒的に多いのが注目された。眼精疲労などの感覚器の疲労は，比較的神経を使う作業に多く，保母もその例外ではないことを示した。

次に多かった訴えは，「物忘れ」だが，目の疲労と比較するとかなりの差がみられた。設置主体別で

は大きな差はみられなかったが，市部の私立保育所保母に7.3%の訴えがあり，とりわけ無認可保育所では，92.6%が訴えており注目された。とくに市部の未婚保母に「物忘れ」の訴えが7.1%と目立った。年代別にみても20代に訴えが最も多く，経験年数が豊かなほど減少傾向を示した。このように，比較的若い世代の未婚者に「物忘れ」が多い理由として育児作業の不慣れが問題であり，それに伴い神経の緊張，自律神経失調などをきたし，保母の作業内容が身体的疲労のみでなく，精神的疲労をも増加させていることをうかがわせた。（表1，2，3）

（未・既婚別については各項目とも表を略した。）

2. 身体部位別症状の分布

設置主体・年代・経験年数・未・既婚別ともに，「腰がいたい，だるい」，「肩がこる，だるい」の訴えに集中していた。次いで，背，頸，下肢，腕に訴えが多くみられた。また症状の左右差では，堀口も作業によって異なり，利き腕にやや頻度が高いと述べているが，本調査でも若干，右腕が高率を示した。

表1 設置主体別頸肩腕障害の全身症状訴え率（%）

地 域	市 部				農 山 村			離 島			へ き 地			全 体			
	公立	私立 認可	私立 無認可	計	公立	私立 認可	計	公立	私立 認可	計	公立	私立 認可	計	公立	私立 認可	無認可	計
対 象 者 数	156	371	27	554	220	78	298	33	44	77	8	0	8	417	493	27	937
目がかすむ	3.8	3.2	0	3.2	7.7	6.4	7.4	6.1	6.8	6.5	25.0	0	25.0	6.5	4.1	0	5.0
視力がおちた 気がする	90.4	95.1	3.7	89.4	88.6	91.0	89.3	81.8	90.9	87.0	62.5	0	62.5	88.2	94.1	3.7	88.9
目がいたい	4.5	0.3	0	1.4	0.9	2.6	1.3	9.1	2.3	5.2	12.5	0	12.5	3.1	0.8	0	1.8
耳なりがする	0	0.3	0	0.2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2	0	0.1
聞こえにくい	0	0	0	0	0.5	0	0.3	0	0	0	0	0	0	0.2	0	0	0.1
からだのだるい	0	0	3.7	0.2	0.5	0	0.3	0	0	0	0	0	0	0.2	0	3.7	0.2
いらいらする	0.6	0	0	0.2	0.5	0	0.3	0	0	0	0	0	0	0.5	0	0	0.2
物忘れする	0.6	1.1	92.6	5.4	1.4	0	1.0	3.0	0	1.3	0	0	0	1.2	0.8	92.6	3.6

表2 年代別頸肩腕障害の全身症状訴え率（%）

地 域	市 部					農 山 村				離 島				へ き 地			全 体								
	20~	30~	40~	50~	計	20~	30~	40~	50~	計	20~	30~	40~	50~	計	20~	30~	40~	50~	計					
対 象 者 数	307	148	72	20	547	144	90	51	8	293	46	21	6	4	77	3	1	3	1	8	500	260	132	33	925
目がかすむ	0.6	1.4	9.7	35.0	3.3	2.1	4.4	25.5	25.0	7.5	0	14.3	33.3	0	6.5	0	0	66.7	0	25.0	1.0	3.5	18.2	27.3	5.1
視力がおちた 気がする	90.6	95.3	83.3	55.0	89.6	92.4	95.6	72.5	75.0	89.4	93.5	85.7	50.0	75.0	87.0	66.7	100.0	33.3	100.0	62.5	91.2	94.6	76.5	63.6	89.1
目がいたい	2.6	0	0	0	1.5	2.8	0	0	0	1.4	6.5	0	16.7	0	5.2	33.3	0	0	0	12.5	3.2	0	0.8	0	1.8
耳なりがする	0.3	0	0	0	0.2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2	0	0	0	0.1
聞こえにくい	0	0	0	0	0	0.7	0	0	0	0.3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2	0	0	0	0.1
からだのだるい	0.3	0	0	0	0.2	0	0	2.0	0	0.3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2	0	0.8	0	0.2
いらいらする	0	0	1.4	0	0.2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.8	0	0.1
物忘れする	5.5	3.4	5.6	10.0	5.1	2.1	0	0	0	1.0	0	0	0	25.0	0	0	0	0	0	0	4.0	1.9	3.0	9.1	3.4

<sup>10)</sup> 小山内らは、頸肩腕障害と腰痛とは互に関連していることを指摘しているが、本調査でも同様の傾向を示し、他の職種（電話交換手、タイピストなど）にみられる結果と一致していた。局所の筋疲労によっておこる「腰がいたい」、「肩がこる」などの訴えは、神経感覚的的症状に属し、保育の労働形態の特徴と強く関連していることがうかがわれた。<sup>11)</sup> 前田の分類によると、保育の作業動作における頸肩腕障害の発症要因は、反復動作によるものよりも上肢の無理な使い方に起因するとしている。<sup>12)</sup> 堀口はとくに局所的疲労を回復させるための体操を実施させることが予防効果をもたらすとし、さらに<sup>13)</sup> 大平は、職業性腰痛は、労働負荷、環境の改善により予防と症状軽減が可能であると述べている。

設置主体別では各部位とも大きな差はみられなかったが、市部の私立無認可保育所において「腰が

いたい」、「下肢がひえる」の訴えが高率を示し、注目された。（表4）

年代別では、市部は30代、すなわち「中堅層」の世代、農山村、離島はともに30代以上が高率を示し、「腰がいたい」を除いてはともに20代が低率を示した。経験年数別では、市部および離島は「10～19年」、農山村は「20～29年」が高率を示した。（表5、6）

次に、未・既婚別では、各地域とも既婚者に訴えが多く、家庭での家事、育児などの負担が影響しているのではないかと推察される。

### 3. 日常生活の不便・苦痛について

頸肩腕障害とは、単に部分的筋疲労でなく自律神経系やホルモン等のバランスをくずす障害であり、総合的に日常生活に支障をきたす職業的疾患であるため本調査においても日常生活の訴えに注目した。

設置主体・年代・経験年数・未・既婚別ともに、

表3 経験年数別頸肩腕障害の全身症状訴え率（%）

地域	市 部					農 山 村					離 島					へ き 地					全 体				
	～9		10～20		30～計		～9		10～20		30～計		～9		10～20		30～計		～9		10～20		30～計		
対象者数	354	115	56	8	533	170	83	35	4	292	54	16	6	0	76	4	1	2	1	8	582	215	99	13	909
目がかすむ	0.8	1.7	17.9	37.5	3.4	1.8	10.8	25.7	25.0	7.5	0	18.8	33.3	0	6.6	0	100.0	50.0	0	25.0	1.0	7.0	22.2	30.8	5.2
視力がおちた	91.2	94.8	80.4	37.5	90.1	93.5	89.2	68.6	75.0	89.0	92.6	75.0	66.7	0	86.8	75.0	0	50.0	100.0	62.5	91.9	90.7	74.7	53.8	89.2
目がいたい	2.3	0	0	0	1.5	2.4	0	0	0	1.4	7.4	0	0	0	5.3	25.0	0	0	0	12.5	2.9	0	0	0	1.9
耳なりがする	0.3	0	0	0	0.2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2	0	0	0	0.1
聞こえにくい	0	0	0	0	0	0.6	0	0	0	0.3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2	0	0	0	0.1
からだがかたがる	0.3	0	0	0	0.2	0	0	2.9	0	0.3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2	0	1.0	0	0.2
いらいらする	0	0	0	12.5	0.2	0	0	2.9	0	0.3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1.0	7.7	0.2
物忘れする	5.1	3.5	1.8	12.5	4.5	1.8	0	0	0	1.0	0	6.3	0	0	1.3	0	0	0	0	0	3.6	2.3	1.0	7.7	3.1

表4 設置主体別・頸肩腕障害の身体部位別（右）症状訴え率（%）

地域	市 部				農 山 村			離 島			へ き 地			全 体			
	公立	私立認可	無認可	計	公立	私立認可	計	公立	私立認可	計	公立	私立認可	計	公立	私立認可	無認可	計
対象者数	135	318	25	478	196	67	263	27	39	66	7	0	7	365	424	25	814
肩がいたい	18.5	18.2	12.0	18.0	12.7	16.4	13.7	7.4	10.3	9.1	28.6	—	28.6	14.8	17.2	12.0	16.0
頸がいたい	11.1	10.1	0	9.8	4.1	13.4	6.5	14.8	7.7	10.6	0	—	0	7.4	10.4	0	8.7
背がいたい	16.3	11.9	16.0	13.4	11.2	9.0	10.6	7.4	10.3	9.1	14.3	—	14.3	12.9	11.3	16.0	12.2
腕がいたい	5.9	7.5	8.0	8.6	6.6	10.4	7.6	7.4	15.4	12.1	0	—	0	8.2	8.7	8.0	8.5
腕がしびれる	11.1	3.1	0	4.2	6.6	13.4	8.4	3.7	5.1	4.5	14.3	—	14.3	6.8	5.0	0	5.7
手がいたい	5.2	3.1	4.0	3.8	3.1	4.5	3.4	3.7	7.7	6.1	0	—	0	3.8	3.8	4.0	3.8
手がしびれる	7.4	4.1	4.0	5.0	5.6	7.5	6.1	7.4	7.7	7.6	14.3	—	14.3	6.6	5.0	4.0	5.7
指がひえる	6.7	2.2	8.0	3.8	3.6	7.5	4.6	7.4	7.7	7.6	14.3	—	14.3	5.2	3.5	8.0	4.4
腰がいたい	35.6	38.7	50.0	37.9	33.2	35.8	33.8	44.4	46.2	45.5	42.9	—	42.9	35.1	38.9	50.0	37.2
下肢がいたい	9.6	6.6	12.0	7.7	8.2	11.9	9.1	11.1	10.3	10.6	14.3	—	14.3	9.0	7.8	12.0	8.5
下肢がひえる	15.6	11.6	36.0	15.3	13.3	14.9	13.7	18.5	17.9	18.2	0	—	0	15.9	12.7	36.0	14.9

「自由な時間はできるだけ横になりたい」の訴えが最も多く注目された。次に多かった訴えは、「本を長く続けて読む根気がない」であった。全体で30%以上の訴え率を示した項目を表に記した。

地域別では、とくに顕著な差はみられなかったが、「本を長く続けて読む根気がない」、「他人の話を聞きもらしたりやることに間違いが多くなる」の訴えは市部に多く精神的な苦痛による症状が強くあらわれていた。

設置主体別では、おおむね市部は公立、農山村、離島は私立に訴えが多かった。(表7)

年代別では市部は30代、農山村は40代に訴えが多く、ともに20代が低率を示した。50代以上の訴えは

他の年代にくらべて、「本を長く続けて読む根気がない」の項目が高率を示した。(表8)

経験年数別では、各地域ともおおむね10~19年に訴えが多く、10年未満の訴えが低率を示した。(表9)

頸肩腕障害の症状は、日常の生活動作に際して、その不便、苦痛として現われることが多く、何らかの活動が長く持続できず、すぐに疲れ、あるいは苦痛を生じ、日常生活に支障をきたすものであると考えられる。

木村らによる評価区分を基に検討した結果、訴えの多くは精神・神経系に関する項目に集中していた。職場では働きざかり、家庭では子育ての最中といった年代に訴えが多い点も注目された。中年層はベテ

表5 年代別・頸肩腕障害の身体部位別 (右) 症状訴え率 (%)

地域	市 部					農 山 村					離 島					へ き 地					全 体				
	20~	30~	40~	50~	計	20~	30~	40~	50~	計	20~	30~	40~	50~	計	20~	30~	40~	50~	計	20~	30~	40~	50~	計
対象者数	263	130	61	19	473	128	84	42	6	260	41	19	4	2	66	3	0	3	1	7	435	233	110	28	806
肩がいたい	16.7	20.8	18.0	15.8	18.0	11.7	15.5	14.3	33.3	13.8	4.9	15.8	25.0	0	9.1	33.3	0	33.3	0	28.6	14.3	18.5	17.3	17.9	16.0
頸がいたい	8.0	11.5	11.5	15.8	9.7	7.0	3.6	9.5	16.7	6.5	12.2	5.3	25.0	0	10.6	0	0	0	0	0	8.0	8.2	10.9	14.3	8.7
背がいたい	11.8	17.7	13.1	10.5	13.5	10.9	13.1	7.1	0	10.8	2.4	21.1	25.0	0	9.1	33.3	0	0	0	14.3	10.8	16.3	10.9	7.1	12.3
腕がいたい	6.1	9.2	14.8	10.5	8.2	5.5	8.3	14.3	0	7.7	4.9	26.3	25.0	0	12.1	0	0	0	0	0	5.7	10.3	14.5	7.1	8.3
腕がしびれる	2.3	4.6	8.2	5.3	3.8	6.3	11.9	7.1	16.7	8.5	0	5.3	50.0	0	4.5	0	0	33.3	0	14.3	3.2	7.3	10.0	7.1	5.5
手がいたい	1.9	5.4	4.9	5.3	3.4	3.1	2.4	2.4	16.7	3.1	2.4	10.5	25.0	0	6.1	0	0	0	0	0	2.3	4.7	4.5	7.1	3.5
手がしびれる	3.4	6.9	8.2	5.3	5.1	2.3	8.3	7.1	50.0	6.2	4.9	10.5	25.0	0	7.6	0	0	33.3	0	14.3	3.2	7.7	9.1	14.3	5.7
指がひえる	3.8	3.8	3.3	5.3	3.8	2.3	4.8	9.5	0	4.2	2.4	15.8	25.0	0	7.6	0	0	33.3	0	14.3	3.2	5.2	7.3	3.6	4.3
腰がいたい	38.4	40.0	27.9	42.1	37.6	32.8	38.1	26.2	50.0	33.8	48.8	42.1	50.0	0	45.5	33.3	0	66.7	0	50.0	37.7	39.5	29.1	39.3	37.1
下肢がいたい	6.5	10.0	4.9	10.5	7.4	7.0	8.3	16.7	16.7	9.2	7.3	15.8	25.0	0	10.6	0	0	33.3	0	14.3	6.7	9.9	10.9	10.7	8.3
下肢がひえる	13.3	19.2	16.4	15.8	15.4	10.2	17.9	14.3	16.7	13.5	9.8	36.8	25.0	0	18.2	0	0	0	0	0	12.0	20.2	15.5	14.3	14.9

表6 経験年数別・頸肩腕障害の身体部位別 (右) 症状訴え率 (%)

地域	市 部					農 山 村					離 島					へ き 地					全 体				
	~9	10~	20~	30~	計	~9	10~	20~	30~	計	~9	10~	20~	30~	計	~9	10~	20~	30~	計	~9	10~	20~	30~	計
対象者数	307	101	50	7	465	153	73	31	3	260	48	14	3	0	65	3	1	2	1	7	511	189	86	11	797
肩がいたい	17.3	21.8	16.0	14.3	18.1	13.1	11.0	25.8	0	13.8	8.3	14.3	0	-	9.2	33.3	0	50.0	0	28.6	15.3	16.9	19.8	9.1	16.1
頸がいたい	8.8	11.9	8.0	14.3	9.5	6.5	4.1	12.9	0	6.5	12.5	7.1	0	-	10.8	0	0	0	0	0	8.4	8.5	9.3	9.1	8.5
背がいたい	13.7	13.9	12.0	0	13.3	11.1	12.3	6.5	0	10.8	6.3	21.4	0	-	9.2	33.3	0	0	0	14.3	12.3	13.8	9.3	0	12.2
腕がいたい	7.5	9.9	10.0	0	8.2	5.2	11.0	12.9	0	7.7	8.3	28.6	0	-	12.3	0	0	0	0	0	6.8	11.6	10.5	0	8.3
腕がしびれる	2.3	5.9	6.0	14.3	3.7	5.9	15.1	6.5	0	8.5	2.1	7.1	33.3	-	4.6	0	0	50.0	0	14.3	3.3	9.5	8.1	9.1	5.4
手がいたい	3.3	3.0	6.0	0	3.4	3.3	2.7	3.2	0	3.1	4.2	14.3	0	-	6.2	0	0	0	0	0	3.9	3.7	4.7	0	3.5
手がしびれる	3.3	8.9	6.0	14.3	4.9	3.9	9.6	9.7	0	6.2	8.3	7.1	0	-	7.7	0	0	50.0	0	14.3	4.5	9.0	8.1	9.1	5.6
指がひえる	4.2	3.0	2.0	14.3	3.9	3.3	2.7	12.9	0	4.2	4.2	21.4	0	-	7.7	0	0	0	100.0	14.3	4.1	4.2	5.8	18.2	4.4
腰がいたい	40.1	37.6	26.0	42.9	38.1	32.7	34.2	35.5	33.3	33.5	45.8	50.0	33.3	-	44.6	33.3	100.0	0	100.0	42.9	38.4	37.6	29.1	45.5	37.3
下肢がいたい	7.2	7.9	8.0	0	7.3	7.2	12.3	12.9	0	9.2	10.4	14.3	0	-	10.8	0	0	0	100.0	14.3	7.4	10.1	9.3	9.1	8.3
下肢がひえる	14.3	15.8	16.0	42.9	15.3	15.0	8.2	16.1	33.3	13.5	14.6	35.7	0	-	18.5	0	0	0	0	0	14.5	14.3	15.1	45.5	14.8

ランではあるが体力が低下し、さらに家庭の負担が加わるためこの年代に対して集中的、精神衛生的なアプローチを行っていく必要がある。

4. 勤務が日常生活におよぼす影響について

設置主体・年代・経験年数・未・既婚別ともに、「趣味・娯楽時間の不足」の訴えが最も多かった。

全体で30%以上の訴え率を示した項目を表に記した。

設置主体別では、おおむね各地域とも公立に訴えが多く、一方、市部、農山村では、「有給休暇がとれない」、「休憩時間の不足」の訴えが私立に多い点が注目された。保育所保母もその特殊性から比較的、休憩時間がとりにくいいため、休憩配分の必要性、

スタッフの増員など労働条件の改善が望まれる。

(表10)

年代別では、全体で30代以上に訴えが集中し、おおむね20代が低率を示した。(表11)

経験年数別では、10年以上に訴えが多かった。10年未満では、「有給休暇がとれない」に訴えが多く注目され、年代別において20代にみられる傾向と一致していた。(表12)

業務実態調査の中で、もち帰りの仕事が多いという訴えが目立ち、「趣味・娯楽時間の不足」、「団欒時間の不足」など家庭生活へ障害を与えている点も検討課題と考えられる。

表7 設置主体別・日常生活の不便・苦痛についての訴え率 (%)

地 域	市 部				農 山 村			離 島			へ き 地			全 体			
	公立	私立認可	無認可	計	公立	私立認可	計	公立	私立認可	計	公立	私立認可	計	公立	私立認可	無認可	計
対 象 者 数	146	339	25	510	214	74	288	29	38	67	8	0	8	397	451	25	873
字を書くにつらい	36.3	34.2	28.0	34.5	33.2	40.5	35.1	34.5	36.8	35.8	12.5	—	12.5	34.0	35.5	28.0	34.6
根気がない	53.4	51.0	36.0	51.0	44.4	54.1	46.9	37.9	47.4	43.3	75.0	—	75.0	47.9	51.2	36.0	49.3
間違いが多い	33.6	35.4	16.0	33.9	30.4	28.4	29.9	24.1	28.9	26.9	50.0	—	50.0	31.5	33.7	16.0	32.2
長く坐るとつらい	31.5	36.0	32.0	34.5	33.6	43.2	36.1	17.2	42.1	31.3	50.0	—	50.0	32.0	37.7	32.0	34.9
いねわりしやすい	30.1	29.5	24.0	29.4	31.3	36.5	32.6	34.5	39.5	37.3	37.5	—	37.5	31.2	31.5	24.0	31.2
横になりたい	66.4	62.2	40.0	62.4	65.4	73.0	67.4	62.1	47.4	53.7	75.0	—	75.0	65.7	62.7	40.0	63.5

表8 年代別・日常生活の不便・苦痛についての訴え率 (%)

地 域	市 部				農 山 村				離 島				へ き 地				全 体								
	20~	30~	40~	50~	計	20~	30~	40~	50~	計	20~	30~	40~	50~	計	20~	30~	40~	50~	計					
対 象 者 数	286	137	63	18	504	141	85	49	8	283	39	21	6	1	67	3	1	3	1	8	469	244	121	28	862
字を書くにつらい	28.7	42.3	39.7	50.0	34.5	32.6	36.5	42.9	25.0	35.3	38.5	28.6	33.3	100.0	35.8	0	0	33.3	0	12.5	30.5	38.9	40.5	42.9	34.7
根気がない	46.2	58.4	50.8	72.2	51.0	41.1	49.4	55.1	62.5	46.6	33.3	47.6	100.0	0	43.3	66.7	0	100.0	100.0	75.0	43.7	54.1	56.2	67.9	49.2
間違いが多い	29.7	39.4	31.7	55.6	33.5	24.8	34.1	36.7	25.0	29.7	23.1	33.3	33.3	0	26.9	0	100.0	66.7	100.0	50.0	27.5	37.3	34.7	46.4	31.9
長く坐るとつらい	34.3	44.5	20.6	16.7	34.7	29.8	43.5	38.8	37.5	35.7	33.3	33.3	16.7	0	31.3	66.7	100.0	33.3	0	50.0	33.0	43.4	28.1	21.4	34.9
いねわりしやすい	25.2	35.8	27.0	50.0	29.2	29.1	35.3	42.9	0	32.5	33.3	42.9	33.3	100.0	37.3	33.3	0	66.7	0	37.5	27.1	36.1	34.7	35.7	31.0
横になりたい	56.3	73.0	63.5	66.7	62.1	60.3	74.1	75.5	62.5	67.1	46.2	66.7	50.0	100.0	53.7	66.7	100.0	66.7	100.0	75.0	56.7	73.0	67.8	67.9	63.2

表9 経験年数別・日常生活の不便・苦痛についての訴え率 (%)

地 域	市 部				農 山 村				離 島				へ き 地				全 体								
	~9	10~	20~	30~	計	~9	10~	20~	30~	計	~9	10~	20~	30~	計	~9	10~	20~	30~	計					
対 象 者 数	332	105	49	6	492	167	77	35	4	283	47	15	4	0	66	4	1	2	1	8	550	198	90	11	849
字を書くにつらい	30.7	43.8	49.0	0	35.0	33.5	39.0	34.3	50.0	35.3	38.3	26.7	50.0	—	36.4	0	0	0	100.0	12.5	32.0	40.4	42.2	27.3	35.0
根気がない	49.4	54.3	53.1	66.7	51.0	40.7	54.5	57.1	75.0	47.0	42.6	33.3	100.0	—	43.9	50.0	100.0	100.0	100.0	75.0	46.2	53.0	57.8	72.7	49.4
間違いが多い	32.2	36.2	38.8	33.3	33.7	24.6	40.3	34.3	25.0	30.0	25.5	33.3	25.0	—	27.3	25.0	100.0	50.0	100.0	50.0	29.3	37.9	36.7	36.4	32.2
長く坐るとつらい	35.5	42.9	18.4	0	35.0	31.1	49.4	31.4	25.0	36.0	31.9	33.3	25.0	—	31.8	75.0	0	0	100.0	50.0	34.2	44.4	23.3	18.2	35.2
いねわりしやすい	26.8	37.1	28.6	50.0	29.5	29.3	44.2	25.7	25.0	32.9	34.0	53.3	25.0	—	37.9	25.0	100.0	0	100.0	37.5	28.2	41.4	26.7	45.5	31.3
横になりたい	59.3	69.5	67.3	50.0	62.2	62.9	75.3	74.3	50.0	67.5	48.9	73.3	50.0	—	54.5	75.0	100.0	50.0	100.0	75.0	59.6	72.2	68.9	54.5	63.5

専門化し、複雑化する保育所保育の業務は肉体的にも精神的にも負担が大きく、とくに既婚者においては家庭生活への多様な影響が明らかとなった。

今後、保育業務のますます増大する社会的要請とその重要性を考えると、保育所保育の総合的ヘルス・ケアが、次のような点を配慮して樹立される必要がある。

- (1) 保育養成課程におけるプライマリ・ヘルス・ケアの理論と技術の教育カリキュラム
- (2) 保育者に対する継続的健康教育・健康管理学の研修による保育労働と健康障害発生メカニズムの科学的理解と予防対策
- (3) 保育者に対する健康診断およびヘルス・ケアの

内容の充実・改善、とくに頸肩腕障害、腰痛症、疲労とくに精神疲労に対する専門的ヘルス・チェック、ヘルス・カウンセリングおよびリハビリテーション

- (4) 保育労働の人間工学的分析と現場の調査による保育所ごとの問題に対応した予防対策プログラムの作成と作業内容の改善（腰痛体操、休憩のとり方など）
- (5) 保育労働強度の軽減と労働条件・労働環境条件の改善

IV 要 約

島根県における保育所保育のヘルス・ケアのあり

表10 設置主体別・勤務が日常生活におよぼす影響についての訴え率（%）

地 域	市 部				農 山 村			離 島			へ き 地			全 体			
	公立	私立認可	私立無認可	計	公立	私立認可	計	公立	私立認可	計	公立	私立認可	計	公立	私立認可	私立無認可	計
対 象 者 数	114	276	19	409	175	66	241	24	29	53	7	0	7	320	371	19	710
休養時間の不足	52.6	47.8	57.9	49.6	49.7	42.4	47.7	45.8	27.6	35.8	100.0	—	100.0	51.6	45.3	57.9	48.5
団楽時間の不足	44.7	34.1	36.8	37.2	38.9	24.2	34.9	25.0	17.2	20.8	71.4	—	71.4	40.6	31.0	36.8	35.5
趣味・娯楽時間の不足	58.8	50.0	47.4	52.3	53.1	45.5	51.0	41.7	34.5	37.7	85.7	—	85.7	55.0	48.0	47.4	51.1
勉強・稽古時間の不足	51.8	39.5	36.8	42.8	48.0	22.7	41.1	25.0	34.5	30.2	71.4	—	71.4	48.1	36.1	36.8	41.5
有給休暇がとれない	27.2	47.8	26.3	41.1	36.6	37.9	36.9	50.0	48.3	49.1	14.3	—	14.3	33.8	46.1	26.3	40.0
休憩時間の不規則	28.1	37.3	31.6	34.5	39.4	40.9	39.8	58.3	13.8	34.0	100.0	—	100.0	38.1	36.1	31.6	36.9

表11 年代別・勤務が日常生活におよぼす影響についての訴え率（%）

地 域	市 部					農 山 村				離 島					へ き 地					全 体					
	20~	30~	40~	50~	計	20~	30~	40~	50~	計	20~	30~	40~	50~	計	20~	30~	40~	50~	計	20~	30~	40~	50~	計
対 象 者 数	215	118	57	16	406	114	75	42	6	237	31	17	4	1	53	2	1	3	1	7	362	211	106	24	703
休養時間の不足	44.7	55.1	54.4	68.8	50.0	37.7	53.3	69.0	33.3	48.1	29.0	52.9	25.0	0	35.8	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	41.4	54.5	60.4	58.3	48.8
団楽時間の不足	24.7	50.8	50.9	56.3	37.2	21.9	48.0	47.6	16.7	34.6	9.7	41.2	25.0	0	20.8	50.0	100.0	100.0	0	71.4	22.7	49.3	50.0	41.7	35.4
趣味・娯楽時間の不足	45.1	63.6	59.6	50.0	52.7	46.5	54.7	54.8	83.3	51.5	32.3	47.1	50.0	0	37.7	100.0	0	100.0	100.0	85.7	44.8	58.8	58.5	58.3	51.5
勉強・稽古時間の不足	31.2	60.2	50.9	50.0	43.1	30.7	54.7	45.2	50.0	41.4	19.4	52.9	25.0	0	30.2	50.0	0	100.0	100.0	71.4	30.1	57.3	49.1	50.0	41.8
有給休暇がとれない	45.1	35.6	36.8	50.0	41.4	43.0	34.7	26.2	16.7	36.7	64.5	23.5	25.0	100.0	49.1	0	0	33.3	0	14.3	45.9	34.1	32.1	41.7	40.1
休憩時間の不規則	33.0	37.3	35.1	37.5	34.7	34.2	44.0	50.0	50.0	40.5	32.3	29.4	75.0	0	34.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	33.7	39.3	44.3	41.7	37.3

表12 経験年数別・勤務が日常生活におよぼす影響についての訴え率（%）

地 域	市 部					農 山 村				離 島					へ き 地					全 体					
	~9	10~	20~	30~	計	~9	10~	20~	30~	計	~9	10~	20~	30~	計	~9	10~	20~	30~	計	~9	10~	20~	30~	計
対 象 者 数	259	88	46	6	399	137	66	31	4	238	37	12	4	0	53	3	1	2	1	7	436	167	83	11	697
休養時間の不足	48.6	50.0	52.2	100.0	50.1	41.6	54.5	58.1	50.0	47.5	37.8	41.7	0	—	35.8	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	45.9	51.5	53.0	81.8	48.6
団楽時間の不足	30.9	45.5	52.2	50.0	36.8	27.7	48.5	38.7	25.0	34.9	13.5	41.7	25.0	—	20.8	66.7	100.0	50.0	100.0	71.4	28.7	46.7	45.8	45.5	35.3
趣味・娯楽時間の不足	49.4	59.1	58.7	50.0	52.6	48.2	54.5	54.8	50.0	50.8	35.1	41.7	50.0	—	37.7	66.7	100.0	100.0	100.0	85.7	47.9	56.3	57.8	54.5	51.2
勉強・稽古時間の不足	36.7	58.0	50.0	50.0	43.1	32.8	59.1	38.7	25.0	40.8	24.3	50.0	25.0	—	30.2	33.3	100.0	100.0	100.0	71.4	34.4	58.1	45.8	45.5	41.6
有給休暇がとれない	42.5	40.9	41.3	50.0	42.1	42.3	31.8	25.8	25.0	37.0	59.5	16.7	50.0	—	49.1	0	0	0	100.0	14.3	43.6	35.3	34.9	45.5	40.6
休憩時間の不規則	34.4	36.4	39.1	16.7	35.1	35.0	45.5	51.6	25.0	39.9	29.7	33.3	75.0	—	34.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	34.6	40.1	47.0	27.3	37.3

方を研究する立場から、今回は、保育者に多発し医学上問題となっている頸肩腕障害と日常生活の不便、苦痛の実態について調査を行った。

本調査対象者は、市部62.1%（公立53.8%，私立66.1%），農山村52.3%（公立51.0%，私立52.3%），離島68.8%（公立57.9%，私立88%），へき地40.0%（公立のみ）であった。対象者は年齢構成では20代が全体の53.4%，経験年数では10年未満が62.1%，未・既婚別では既婚者が60.2%，平均労働時間では8～9時間が93.6%を占めた。

頸肩腕障害の症状では、「物忘れ」や感覚器，とくに「目の疲労」，「視力がおちた気がする」，さらに「肩こり」，「腰痛」など頸肩腕障害の典型的なパターンがみられた。

日常生活の不便・苦痛の訴えでは，精神神経系に関する症状が中年層に最も多くあらわれていた。

業務の実態では，「休憩時間が十分とれない」あるいは「家庭への仕事のもち帰り」など日常生活への影響も明らかになった。

本調査結果から，今後，保育者の労働条件，職場の環境条件，作業および保育内容，一日の生活時間配分などを具体的に考慮したプライマリ・ヘルス・ケア対策や，適切な健康教育あるいは生活指導の展開が重要な課題と考えられる。

本研究の要旨は，第27回日本小児保健学会（1983，埼玉）ならびに第30回日本公衆衛生学会（1983，横浜）において発表したものである。

なお，本研究にあたり御指導を賜りました本学名誉教授大久保英子氏ならびに，島根医科大学第2環境保健医学教室教授山根洋右氏，同助教授吉田暢夫氏，また，調査に御協力いただきました島根県各保育所長，ならびに保育の方々，島根県および関連市町村の社会福祉関係の方々に厚く御礼申し上げます。

#### 参 考 文 献

- 1) 斉藤 一：頸肩腕障害と腰痛 労働科学研究所 東京（1979）
- 2) 田中博一他：労働科学29（10） 18～25（1974）
- 3) 吉竹 博：産業疲労 労働科学研究所 東京（1978） 151～154
- 4) 田川智子：本誌21 43～50（1983）
- 5) 木村正己他：住友産業衛生 9 162～172（1973）
- 6) 斉藤 一：労働時間 労働科学研究所 東京（1981）
- 7) 日本産業衛生学会頸肩腕障害委員会：産業医学 14 425～427（1972）
- 8) 日本産業衛生学会交代勤務委員会：産業医学 20（5）308～344（1978）
- 9) 堀口俊一：職業病ハンドブック 産業労働調査所 東京（1975）46～64
- 10) 小山内博他：労働科学55（2）83～100（1979）
- 11) 前田勝義：労働科学28（9）30～34（1973）
- 12) 堀口俊一：産業保健 日本産業衛生学会教育資料委員会 東京（1976）327～346
- 13) 大平昌彦：日本医師会雑誌85（6）663～673（1981）

（昭和59年1月31日受理）